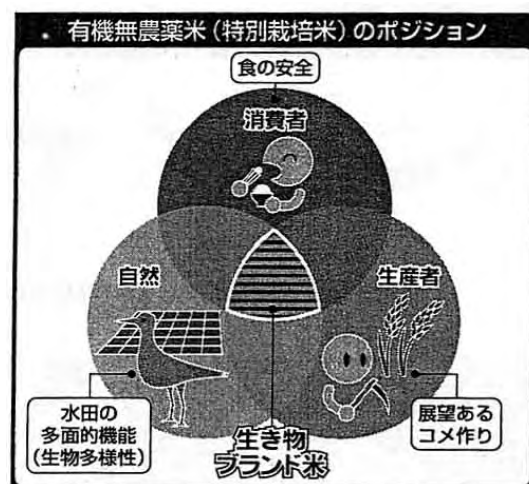
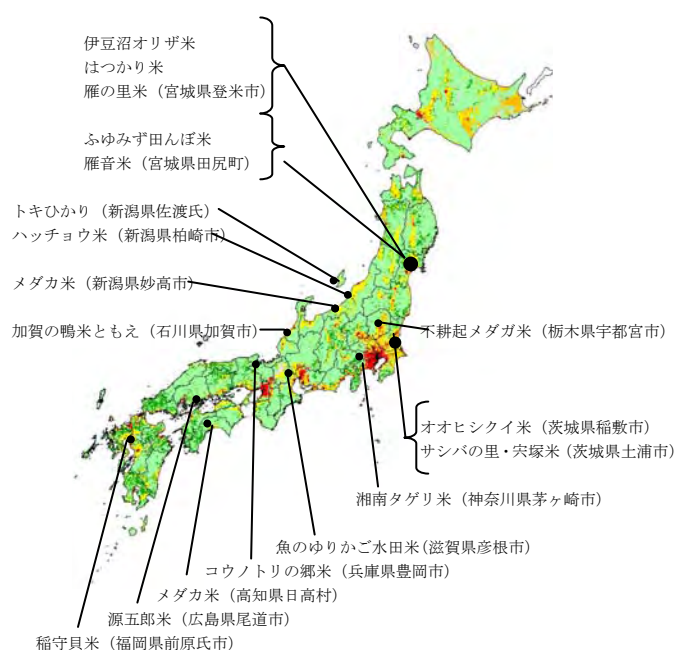


生き物ブランド米

昨今の自然環境への関心の高まりを受け、日本各地の水田でカモやメダカ、ゲンゴロウなど水田に生息する生き物の名前を付けた米、「生き物ブランド米」が生産されている。生き物ブランド米は、生産者が田んぼの生態系に配慮し、水田にご当地の生き物を戻すことを目的として始められたものがほとんどであるが、魚や鳥などの生き物が暮らす水田で育った米であるということが、食の安全を求める消費者に受け入れられている。価格は通常のものに比べてやや割高にも関わらず、完売するブランドもでるなど売れ行きは好調。生き物ブランド米はここ 3,4 年で増えてきたが、平成 17 年 7 月の段階で、農林水産省が把握するブランド数は 18 となっている。このように、これまで品質・価格重視だった消費者の価値観に、水田の多面的な機能をも評価する傾向が見られるようになってきている。



【新潟県佐渡島における取組】

佐渡島ではトキの野生復帰を目指し、トキの餌場となるドジョウやサワガニ等の餌生物が豊富な水田、水路、河川、ビオトープ等の整備と営巣木を確保するための森林整備を関係行政機関、地元ボランティアとが連携して実施している。現在島内の 20 戸の農家が、計 20ha の田んぼで不耕起・冬期湛水農法で作られたコシヒカリを生産し、「トキひかり」と称するブランド米として販売している。

現在、佐渡島で取り入れられている環境保全型農業は、以下の通り。

- ・ アイガモ農法、鯉農法による除草
- ・ 米ぬかとくず大豆による抑草
- ・ 不耕起農法
- ・ ビオトープ水田づくり
- ・ 棚田の保全

ビオトープ水田



トキひかり
(コシヒカリ)
4.5kg : 3990 円
新潟産コシヒカリ
5kg : 3000 円
(標準価格)

【兵庫県豊岡市における取組】

豊岡市では、コウノトリの野生復帰を目指し、コウノトリの生息地となる環境の整備を進めている。その一環で実践されている「コウノトリ育む農法」では、農閑期においても餌場となる水田に水を張ったり、排水路と水田を結ぶ水路を拡大することで水生生物の往来を活性化することによって、コウノトリの餌となるドジョウやフナ、ナマズなどを確保している。また、副次的に増加したカエルやカマキリが害虫を捕食することによって、農薬の使用量を抑えることができ、有機栽培の実践にもつながっている。

豊岡市では、「コウノトリ育む農法」で生産したコシヒカリを「コウノトリの郷米」と名付けて販売している。



有機水田と
コウノトリ



コウノトリの郷米
(コシヒカリ)
5 kg : 3200 円
兵庫県産コシヒカリ
5 kg : 2480 円 (標準価格)

【宮城県蕪栗沼・周辺水田における取組】

蕪栗沼およびその周辺水田は冬の渡り鳥の重要な飛来地であり、天然記念物のマガン、ヒシクイなどの貴重な鳥類が訪れる。蕪栗沼周辺地域では、渡り鳥との共生を目指し、冬期においても田んぼに水を張って餌場を確保したり、収穫前の稲や田植え直後の苗が食べられる食害に対して損害を補償する条例を制定するなど、環境保全型農業に取り組んでいる。

また、周辺地域の水田では、農薬・化学肥料を使わずに育てた米を「雁の里米」「雁音米」「ふゆみずたんぼ米」として販売している。



マガンと
冬水田んぼ



ふゆみずたんぼ米
(ひとめぼれ)
5 kg : 2800 円
宮城県産ひとめぼれ
5 kg : 2560 円 (標準価格)